

現在、中国では、急速な経済成長により、国民の所得や教育水準が上昇し、生活環境が徐々に改善されつつある一方で、健康にとってのリスク要因である体重の過度な増加が危惧され始めている。適度な体重の増加は、健康に対し良い影響を与えるか<sup>6</sup>、中国では、数多くの人々が<sup>7</sup>、体重が<sup>8</sup> それ以上増えると危険な水準を越えてしまっている。したがって、中国人口の生活習慣、中国における地域特徴および健康格差を招く政策効果を考えたうえ、中国における肥満の要因について、社会経済的属性及び、地域属性に焦点を当てて分析を行うこととする。本稿は、中国人口の肥満率を中心とし、生活習慣・状態などの方面の要因、特に中国を分析した。中国における成年者を対象し、BMI 指数と肥満となるかどうかのダミー変数を被説明変数とし、CHNS の二つの wave のデータをを用い実証分析を行った。実証分析の結果として、中国人口の労働時間、所得水準が肥満となる確率に統計的に有意に依存していることが確認された。一方、中国の地域特徴について、北方地域に居住している中国人口は南方地域に居住している人より肥満となる確率が高まることも考えられた。そして、健康格差、及び所得格差を招く改革開放政策も肥満となる確率に統計的に有意に依存していることが確認された。以上の分析結果から、中国人口の肥満率問題の要因は、中国人口の労働状態、所得水準、及び中国の国情から生じた所得格差と生活習慣などのことであるという結論を明らかにした。そして、中国人口の肥満率問題を解決するため、中国人口の生活習慣、および生活・労働状態などの方面の特徴を無視できないという提言を挙げたいと考えている。